

COM450/PLS475 International News Coverage (3 credits)

Spring 2010: Thursday, Friday 10:30-11:45

Instructor: Takashi Koyama

Email: ktakashi@aiu.ac.jp, ktakashi@aol.com

Office: B3-3 Phone 090-4208-7062

Course Description

Students will be introduced to international news in newspapers, magazines and the internet. The emphasis will be on acquiring familiarity with key political, economic and international developments. We will explore the historical background of the Middle East problem, American economic crisis, Six Party Talks on North Korea, Iran's nuclear development and China's rise as a great power. We will also study the problems the media face in covering international news.

Course Objectives

The course has three primary goals.

- 1) To be able to understand international news and regional issues as well as terms which frequently appear in the news.
- 2) To improve students' ability to gather information through English and to express their views in English.
- 3) Teach students on ways to analyze international news and to form their own opinion.

Study Materials

I will distribute newspaper and magazine articles in class.

Assessment

Two response papers (20%) , attendance(20%) and the final exam(60%)

Expected Academic Background

No background is necessary

Policies

Get the students interested in international news so that they will read newspapers everyday

Format and Activities

In the beginning of class I will explain the important news of the week. Students will read not only newspaper articles but will also listen to tapes

of press conferences and speeches given by well known American specialist at the Foreign Correspondents Club of Japan and Japan International Institute Affairs. Debates and discussion among students on those issues are welcomed.

Class Schedule

1. Using the Internet to Search International News
2. Reporting from Egypt, Saudi Arabia and Washington
3. Futenma
4. Japan U.S. Security Treaty
5. I M F Report and Japanese Economy
6. U.S. Foreign Policy and Economy
7. Why US is Misunderstood in Japan
7. Public Diplomacy and Media
8. International Media Leaving Japan
9. NYT versus the Japanese Foreign Ministry
10. Discussion
11. The Most Important News of the World
12. Second Most Important News of the World
13. The Third Most Important News of the World
14. Understanding Western Terms (1)
15. Understanding Western Terms (2)
16. Understanding Middle East Terms (1)
17. Understanding Middle East Terms (2)
18. The War on Terrorism
19. The War on Terrorism and Nuclear Proliferation
20. Middle East Peace (1)
21. Middle East Peace (2)
22. Discussion
23. The Rise of Iran
24. North Korea and the Six Party Talks
25. Afghanistan
26. Pakistan and India
27. The Rise of China
28. Russia, Europe and Africa
29. Climate Warming (Environment)
30. Analyzing international news

シラバス（様式例）

授業科目名： TLP120 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山名裕子
科目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童 及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 発達と教育の関係について理解できるようになるとともに、授業で得られた知見を教育の実践で活かすための基礎となる力を養う。また課題やディスカッションを通じて、自分の意見を述べるようにする。			
授業の概要 発達の理解をもとに、教育の諸問題をとりあげていく。			
授業計画 第1回： オリエンテーション・教育心理学を学ぶ意味 授業の概要，進め方，評価の仕方についての説明。教育心理学と発達，教育の関係。 第2回： 発達と教育（1）教育心理学における発達 発達の考え方とは何か。発達の知見と教育的実践の関係。 第3回： 発達と教育（2）発達と学習の考え方 遺伝と環境の考え方。発達と学習のみちすじ。 第4回： 発達の諸相（1）思考の発達 ピアジェの認知発達理論，ならびにその後の理論的展開。 第5回： 発達の諸相（2）知識と理解の発達 わかるということはどういうことなのか。知識や理解を深めていく過程。 第6回： 自己・社会性の発達と教育（1）自己概念の発達 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育。 第7回： 自己・社会性の発達と教育（2）性の社会的役割の発達と教育 性役割の発達と学習過程，学校場面における性別処遇と誤解と偏見。 第8回： 学習のメカニズム 記憶研究の知見からの学習のメカニズム。効果的な学習法，教授法。 第9回： 学習の動機づけ 動機づけの成り立ち。やる気を引き出し，持続させるためには。 第10回： 学校と文化（1）学校と日常での学習の違いと文化 生活場面での学習と学校での学習の相違，発達期待の文化による違い。 第11回： 学校と文化（2）異文化の理解 学校教育における異文化の理解。教育の国際化。 第12回： 学校における適応とつまずきの諸問題（1）学校における適応と評価 学校での評価と不適応行動，特に学習のつまずきと対応。 第13回： 学校における適応とつまずきの諸問題（2）対人関係のつまずき 対人関係におけるつまずきと対応。 第14回： 学校における適応とつまずきの諸問題（3）障害のある子どもへの対応 「障害」を理解するということ。障害のある子どもへの教育的配慮。 第15回： 最終試験			
テキスト：井上智義・岡本真彦・北神慎司 2007 教育の方法：心理学をいかした指導のポイント <small>じゅそんぼう</small> 樹村房			
参考書：随時，授業の中で紹介する。			
学生に対する評価 小テスト 30%，課題・ディスカッション 20%，最終試験 50%			

シラバス（様式例）

教職概論（TLP130）＜2010春 Semester＞ 授業実施計画

1 授業の到達目標及びテーマ

この授業においては、「教師」という職業について、その社会的地位、役割、使命、また歴史や制度などに関して多面的に検討し、理解を深めることを目的とする。

さらにこの授業を通して、各自が職業として教職を選択するに際して意欲や適性等を考慮しつつ、自らの目指すべき教師像、理想の教師像を思い描くことができるようになることが期待される。

2 授業の概要

教育者としてのやりがいや使命、社会的地位と役割など、教職の意義について理解するとともに、教員をめぐる法的規定や制度的位置付け、また学校における職務内容など、教育職としての役割を理解する。

特に実際の学校現場における教員の職務や教育委員会・地域・保護者とのかかわり方などにも焦点を当て、今後の進路として教職を志す者が、毎時間において教職の専門性や教師に求められる役割と課題など、教員という職業に関する課題を自らの問いとして省察されるように授業が構成される。

3 授業実施計画

授業時間 18:45～20:00

月 日	授 業 内 容
第1回	○ オリエンテーション ～ 教員免許を取得するために（教員になるために、大学でどのような学習をしなければならないのかを、教員採用試験の内容、スケジュール等の実務にふれながら学ぶ。）
第2回	○ 人間の成長と「師」～各自の出会った先生について振り返り、人生の「師」とはどのような人か、話し合い、現段階における「自己の目指したい教師像」について考察する。
第3回	○ 「教師」の資質と使命（Ⅰ：明治～戦前）～「教職観」の変遷やその時々々の教師をめぐってなされる社会的評価に基づく「教師像」について検討し、「あるべき教師像」について考察する。
第4回	同 上
第5回	○ 「教師」の資質と使命（Ⅱ：戦後～）～「教職観」の変遷やその時々々の教師をめぐってなされる社会的評価に基づく「教師像」について検討し、「あるべき教師像」について考察する。
第6回	同 上
第7回	○ 学校における教員の職務（Ⅰ）～ 学級経営における教員の役割と、生徒との関わりについて考察する。
第8回	同 上
第9回	○ 学校における教員の職務（Ⅱ）～ 教科指導における指導法など、学習指導の在り方を考察する。
第10回	○ 中間試験 ～ これまでの講義の理解度を評価する。
第11回	○ 学校における教員の職務（Ⅲ）～ 教科指導における相対評価、絶対評価など、教育評価について考察する。
第12回	同 上

第13回	○ 学校における教員の職務（Ⅳ）～ 高等学校学習指導要領や生徒指導要録の実際について学習し、理解を深める。
第14回	○ 教育関係法規（Ⅰ）～ 憲法、教育基本法、学校教育法など、教育や教員に係る法律について幅広く学ぶ。
第15回	○ 教育関係法規（Ⅱ）～ 教育公務員特例法、地方公務員法、など、教育や教員に係る法律について幅広く学ぶ。
第16回	○ 教育関係法規（Ⅲ）～ 教育職員免許法、地教行法など、教育や教員に係る法律について幅広く学ぶ。
第17回	○ 「教師」の資質と使命（Ⅲ）～ 中央教育審議会答申による期待される教師像について理解を深めるとともに、どのような教師を目指すのかについて考察を深める。 ○ 財政と教育行政～ 国及び県の財政と教育行政について考察する。
第18回	○ 「教師」の資質と使命（Ⅲ）～ 文学作品などに述べられている教育観、教師観について検討し、あるべき教師像、自己の目指す教師像について考察を深める。 (全員発表)
第19回	同 上
第20回	○ 期末試験 ～ これまでの講義の理解度を評価する。
<p>テキスト とくに指定しない。毎回授業に関連するプリント、レジュメを配布する</p> <p>参考書 授業において、適宜紹介する。</p>	
<p>学生に対する評価 評価は次の観点によって行う。60点以上に単位認定をする。 授業の平常点（ディスカッションへの積極的参加や発言など）…20% 小レポート（随時）…20% 中間・期末試験成績…60% なお、欠席は6回まで認められるが、欠席1回につき4点減点される。7回以上の欠席は単位を認定しない。</p>	

授業科目名： TLP140 教育課程の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：佐伯 知美
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 教育課程の理論と実践的方法		
授業の到達目標及びテーマ 高等学校教員を目指す受講生が着任後、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開できるよう、教育課程の理論並びに実践的方法に関する理解を深め、教育課程の編成ならびに実践に関する基礎知識・技術を習得することを目的とする。			
授業の概要 日本における明治時代以降の教育課程・学習指導要領の変遷、教科書制度の変遷などを、これらに影響を与えた教育理念、社会的背景、学校教育の実践などと関連づけて考察する。明治初期から現在までの教育課程のありかたを概観することを通して、21世紀の教育課程、今後の教育課程の望ましいあり方について模索する。授業は講義形式を進めることを基本とするが、受講生諸君の意見を求めたりする機会を積極的に設定する。海外の事例との比較研究も行う。			
授業計画 第1回「この科目で学習すること（オリエンテーション）」 この科目で学習する内容に関して、大まかな流れを把握する。 第2回「明治初期の教育課程－「学制布告書」」 「小学教則」を中心に「学制布告書」など当時の教育課程に影響を与えた背景、当時の学校教育の実践などとの関連から考察する。 第3回「明治時代の教育課程－「教學聖旨」「教育勅語」を背景として」 「小学校教則綱領」「小学校教則大綱」を中心に、「教學聖旨」「教育勅語」がこれらの教育課程に与えた影響を考察する。 第4回「大正時代・昭和時代初期、終戦までの教育課程」 大正の自由教育ならびに戦時下の学校教育について、当時の社会的背景や学校教育の実践などとの関連から考察する。 第5回「教科書制度の変遷」 明治初期から現在に至る教科書制度の変遷を概観し、教科書制度の意義と今後の課題を考察する。 第6回「戦後当初の教育課程」 旧教育基本法のもつ教育理念、戦後当初の教育課程、当時の学校教育の実践について考察する。 第7回「戦後・現在までの教育課程、学習指導要領の変遷」 学習指導要領の性格及び内容の変遷を概観する。			

第8回 「21世紀に必要な学力」

学力問題への対処、21世紀に必要な学力を養成する教育の計画・実践・評価のありかたを考える。

第9回 「現在の教育課程、現在の教育課題」

現在の教育課程、教育課題について考察し、今後の教育課程の望ましいあり方について模索する。

第10回 「この科目で学習したこと（まとめ）」

学習内容を復習し、今後の教育課程・学級運営・授業展開などのありかたについて考察する。

テキスト

浪本勝年代表編集『2010年版ハンディ教育六法』北樹出版

必要に応じて適宜、資料を作成し、配布する。

参考書

高等学校学習指導要領、同「解説—総則—」編など

学生に対する評価 以下を総合的に評価する。

- 1 中間・期末レポートを課す (70%)
- 2 前回の授業のまとめなどの宿題を随時、課す (20%) (全授業回数の半数程度)
- 3 発言・発表など授業への自主的・積極的参加を評価する (10%)

授業科目名： TLP210 特別活動の研究	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：佐伯 知美
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 特別活動の指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>特別活動の根幹となる民主主義的な精神などに関する理論並びにその理論を特別活動において具体的に展開する指導・支援方法の両方について理解し、思索を深めていく。高等学校教員を目指す受講生が着任後、創意工夫を生かし特色ある特別活動の計画・実践・評価などを行うことができるよう、理解や思索の段階にとどめることなく、基礎的实践力の養成に結びつけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動の理論、指導・支援方法に関して、学習指導要領の記載内容の読解、文献調査などを通して理解する。この理解に基に、特別活動に含まれる活動の種類ごとに、その意義と指導・支援方法について思索を深めていく。実践例の検討を数多く行うことや特別活動における指導計画を作成することなどを通して、基礎的实践力の養成を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回「この科目で学習すること(オリエンテーション)」 この科目で学習する事項に関して、大まかな流れを把握する。</p> <p>第2回「特別活動の教育課程における位置」 特別活動の教育的な意義、教育課程における位置づけ、その他の授業との関連を学ぶ。</p> <p>第3回「特別活動の原理」 特別活動の原理を、日本国内外の文献(具体的には授業時に指示する)を通し、考察する。</p> <p>第4回「学級活動(ホームルーム活動)について」「生徒会活動について」 学級活動(ホームルーム活動)ならびに生徒会活動の目標、活動内容を学び、事例把握を通して、適切な指導・支援方法を模索する。</p> <p>第5回「学校行事①儀式的行事」 儀式的活動の教育的な意義、国旗及び国歌の取り扱いについて学ぶ。</p> <p>第6回「学校行事②学芸的行事・健康安全・体育的行事について」 学芸的行事・健康安全・体育的行事の教育的な意義を学び、事例把握を通して今後の課題を考察する。</p> <p>第7回「学校行事③旅行・集団宿泊的行事」 旅行・集団宿泊的行事の教育的な意義を学び、事象把握を通して今後の課題を考察する。</p> <p>第8回「学校行事④ 勤労生産・奉仕的行事について」 勤労生産・奉仕的行事の教育的な意義を学び、事象把握を通して今後の課題を考察する。</p>			

第9回 「今後の特別活動」「海外における特別活動の事例研究」

今後の特別活動について考察する。

海外の特別活動の事例について紹介し、日本の特別活動と比較研究する。

第10回 「この科目で学習したこと（まとめ）」

学習内容を復習し、今後の特別活動を行ううえでの教師の役割などを模索する。

テキスト

中谷 彪・臼井英治・大津尚志編『特別活動のフロンティア』晃洋書房

法令改正、学校における状況変化等を踏まえ、必要に応じて適宜、資料を作成し、配布する。

参考書

高等学校学習指導要領、同「解説—総則—」編、同「解説—特別活動—」編など

学生に対する評価 以下を総合的に評価する。

- 1 中間・期末レポートを課す (70%)
- 2 前回の授業のまとめなど、随時、宿題を出す (20%) (全授業回数の半数程度)
- 3 発言・発表など授業への自主的・積極的参加を評価する (10%)

1 授業の到達目標及びテーマ

生徒指導の目的は、児童生徒が将来社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助である。しかしながら、いじめや暴力行為、不登校など児童生徒の反社会的或いは非社会的問題行動が深刻な社会問題にまで発展しており、これらへの教師の対応など、学校の生徒指導の在り方が問題となる場合も多い。

また、進路指導は、生徒が主体的に適切な進路を選択して進路実現を図るための支援・援助である。

本講座では、生徒の問題行動に対する理解と対応並びに青少年期における成長の過程において生徒の自己指導能力を育成するために教師は生徒とどう関わっていくべきなのかについて考察する。

これら生徒指導、進路指導の在り方を通して、教師として人間として生徒といかに向き合うか、学校における人間教育の在り方を探求・考察することを目的とする

2 授業の概要

生徒指導上の諸問題についての現状を把握するとともに具体的なケースに即して事例研究を行い、適切な生徒指導の在り方を考察する。また生徒指導を通じて育成される自己指導能力により、生徒自身の人間としての生き方や考え方が深められ、将来を見据えた進路実現へと結びついていくことについて、キャリア教育とも関連させながら学習する。

生徒指導と進路指導は個別の指導に基づく一領域ではなく、密接な関わりをもった学校教育の重要な一機能である。学校生活の全体を通じて、生徒と人間として向き合い、生徒の人的成長を導く生徒指導、進路指導の在り方を考察する。

3 授業実施計画 授業時間 18:45～20:00

回	授業内容
第1回	○ オリエンテーション ○ 生徒指導上の諸問題について（Ⅰ）～ いじめや暴力行為等の反社会的問題行動に関する高校生の現状について、各種データから理解する。
第2回	○ 生徒指導上の諸問題について（Ⅱ）～ 不登校等の非社会的問題行動等に関する現状について、各種データから理解する。
第3回	○ 生徒指導とは～ 生徒指導の意義や基本的な性格、生徒指導と教育課程等について、関係法令や学習指導要領等にふれながら学ぶ。
第4回	○ ケース研究（Ⅰ-1）～ 喫煙や暴力行為等の具体的事例に基づき、学校や教師の対応のあり方について考える。
第5回	○ ケース研究（Ⅰ-2）～ 喫煙や暴力行為等の具体的事例に基づき、学校や教師の対応のあり方について考える。
第6回	○ 学校における生徒指導体制並びに学級担任と生徒指導～ 充実した生徒指導を推進するための組織・体制・計画の在り方について、県教育委員会の指針や県内高等学校の生徒指導年間計画等の具体例を通して学ぶ。 また、学級担任として、生徒理解に基づく学級運営や問題を抱えた生徒やその保護者との関わり方などについて、具体的事例に基づき考察する。
第7回	○ ケース研究（Ⅱ-1）～ 不登校について、具体的事例に基づき、学校や教師の対応のあり方について考える。
第8回	○ ケース研究（Ⅱ-2）～ 不登校について、具体的事例に基づき、学校や教師の対応のあり方について考える。
第9回	○ ケース研究（Ⅲ-1）～ いじめについて、具体的事例に基づき、学校や教師の対応のあり方について考える。
第10回	○ ケース研究（Ⅲ-2）～ いじめについて、具体的事例に基づき、学校や教師の対応のあり方について考える。

第11回	○ 懲戒と体罰 ～ 生徒への懲戒と体罰について考察する。
第12回	○ 中間テスト ～ 1回から5回までの内容について考査を行う。
第13回	○ 少年法 ～ 少年法及び少年事件の処遇について理解を深める。
第14回	○ 危機管理 ～ 学校に関わるさまざまな事故についての危機管理の在り方について考察し、理解を深める。
第15回	○ 高校時代の進路指導について～ 自己の進路選択・決定と高校における進路指導について振り返り、進路指導の在り方について考察する。
第16回	○ 進路指導の歴史（Ⅰ）～ 学校教育における進路指導について、その歴史の変遷を学習し、進路指導について考察を深める。
第17回	○ 進路指導の歴史（Ⅱ）～ 学校教育における進路指導について、その歴史の変遷を学習し、進路指導について考察を深める。
第18回	○ 進路指導とキャリア教育～ フリーターやニートなどが社会問題化する中で、進路指導とキャリア教育について考察する。
第19回	○ 事例研究～ 高等学校における進学指導・就職指導について事例に基づいて考察を深める。
第20回	○ 期末考査 ～ 第13～19回までの授業の内容を踏まえ、テストを行う。
<p>テキスト とくに指定しない。</p> <p>参考書 授業において、適宜紹介する。</p>	
<p>学生に対する評価 小テスト、期末考査…合計60% 小レポート（不定期）…20% 授業中の発言やディスカッションへの参加などの平常点…20% なお、欠席1回ごとに5点減点とし、5回以上の欠席は失格とする。</p>	